

船舶事故調査報告書

平成 30 年 9 月 19 日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成 30 年 4 月 13 日 20 時 45 分ごろ
発生場所	香川県観音寺市伊吹島 ^{いぶき} 北浦港東方沖 伊吹港北浦西防波堤灯台から真方位 084° 480m 付近 (概位 北緯 34° 08.0′ 東経 133° 32.4′)
事故の概要	プレジャーボート なぎ V は、西北西進中、また、プレジャーボート 河島丸 ^{かわしま} は、漂流中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成 30 年 4 月 24 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート なぎ V、4.2 トン K A 3-31238（漁船登録番号）、個人所有 第 281-35786 号（船舶検査済票の番号） B プレジャーボート 河島丸、1.5 トン 280-44325 香川、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長 A、一級小型・特殊・特定 B 船長 B、二級小型
負傷者	なし
損傷	A 船首部から船尾部にかけての船底外板に擦過傷、プロペラ翼に欠損等 B 船首部が脱落等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 3、視界 良好 海象：波高 約 0.5 m、潮汐 高潮時
事故の経過	A 船は、船長 A が 1 人で乗り組み、法定灯火を表示して約 30 km/h の速力（対地速力、以下同じ。）で北浦港東方沖を西北西進中、船首方で B 船のエンジン音が聞こえたので、すぐに減速したものの、船首部と B 船の左舷船首部とが衝突し、B 船を乗り切った。 船長 A は、微速力で 10 km/h の速力よりも速く航行すれば A 船の船首部が浮上して船首方に死角が生じることを知っていたものの、船首方を見たところ他船の灯火が見えなかったため、死角を補う見張りを行っていなかった。 A 船には、レーダーが設置されていたが、本事故当時、故障していた。 B 船は、船長 B が 1 人で乗り組み、知人 3 人を乗せ、法定灯火を表示して主機を中立運転とし、北浦港東方沖で船首を南方に向けて釣りをしながら漂流していた。 B 船は、船長 B が、同乗者 3 人と共に釣り道具を片付けていたとこ

	<p>ろ、A 船のエンジン音が聞こえたものの何もできず、A 船と衝突した。</p> <p>船長Bは、周囲を見ていなかったなので、A 船のエンジン音が聞こえるまでA 船に気付かなかった。</p> <p>B 船には、レーダーがなかった。</p>
分析	<p>A 船は、北浦港東方沖を西北西進中、船長Aが、船首方に他船はいないと思い、船首浮上により生じた死角を補う見張りを適切に行っていなかったことから、前路で漂泊中のB 船に気付かず、B 船と衝突したものと考えられる。</p> <p>B 船は、北浦港東方沖において漂泊中、船長Bが、釣り道具を片付けていて周囲の見張りを適切に行っていなかったことから、間近に迫るまでA 船に気付かず、A 船と衝突したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、北浦港東方沖において、A 船が西北西進中、B 船が漂泊中、船長Aが船首浮上により生じた死角を補う見張りを適切に行っておらず、また、船長Bが周囲の見張りを適切に行っていなかったため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型船舶の船長は、夜間、航行中に他船の灯火が認められない場合においても、船首を左右に振るなどし、船首方の死角を補う見張りを適切に行うこと。 ・ 漂泊中であっても、周囲を確認して他船の早期発見に努めること。